

中型いか釣り漁業緊急支援事業

清藤 真樹

目 的

北海道周辺海域（武蔵堆周辺、網走沖）における秋期スルメイカ漁場の形成要因と生物特性を把握し、漁場探索の効率化等の経費節減を図り、震災で多大な影響を受けた中型いか釣り漁業の支援、経営改善を図る。

材料と方法

北海道周辺海域において釣獲試験を行い、中型いか釣り漁船に速報する。また、調査データを蓄積して同海域における漁場形成特性を把握し、効率的な漁場探索指標として活用する。

1 第1次調査

- ①期 間：平成24年9月19日から10月3日
- ②操業回数：12回
- ③調査項目：海洋観測（CTDによる水温、塩分測定）
：漁獲調査（自動イカ釣り機による釣獲試験、外套長の測定）

2 第2次調査

- ①期 間：平成24年10月16日から10月28日
- ②操業回数：2回
- ③調査項目：海洋観測（CTDによる水温、塩分測定）
：漁獲調査（自動イカ釣り機による釣獲試験、外套長の測定）

結 果

1 第1次調査

海洋観測結果では、0m水温20.2～26.6℃、50m水温3.3～16.1℃、100m水温1.7～9.8℃であった。漁獲調査結果は有漁率100%、1操業当たりの尾数は37～4,921尾、外套長の範囲は16～34cmであった。CPUE（尾/台/時）は1.64～31.95であった。全体的に北海道沿岸の水温は高い状態となっており、ロシア側の200海里ラインに近い海域で漁獲が好調であった。この情報により北海道西方海域で操業していた一部漁船は石川県北方（大和堆）に移動した（図1、2、3）。

2 第2次調査

調査期間中は悪天候のため調査回数は2回のみとなった。海洋観測結果は、0m水温16.2～17.3℃、50m水温16.1℃、100m水温8.9～12.7℃であった。漁獲調査結果は有漁率100%、1操業当たりの尾数は38～45尾、外套長の範囲は15～27cm、CPUE（尾/台/時）は0.47～4.26であった。また、本県中型漁船も操業を行うようになったオホーツク海（網走沖周辺）の調査を行ったがCPUE（尾/台/時）は1以下であり、この情報により青森県所属船は日本海における操業を継続することとなった（図4）。

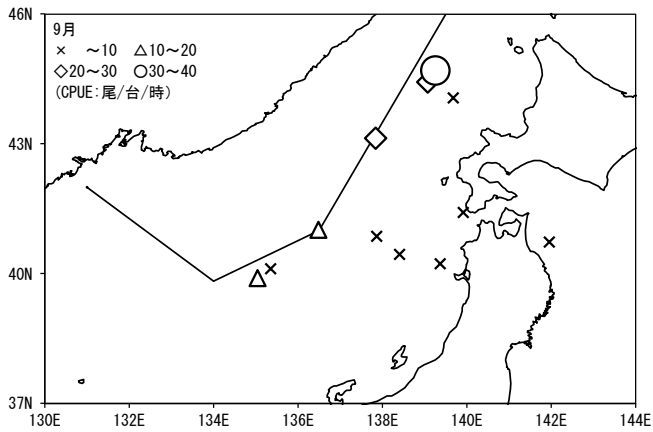


図1 6月調査結果

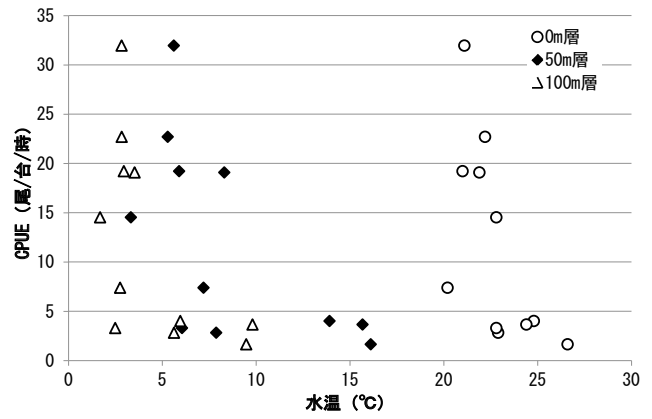


図2 各層水温とCPUEの関係

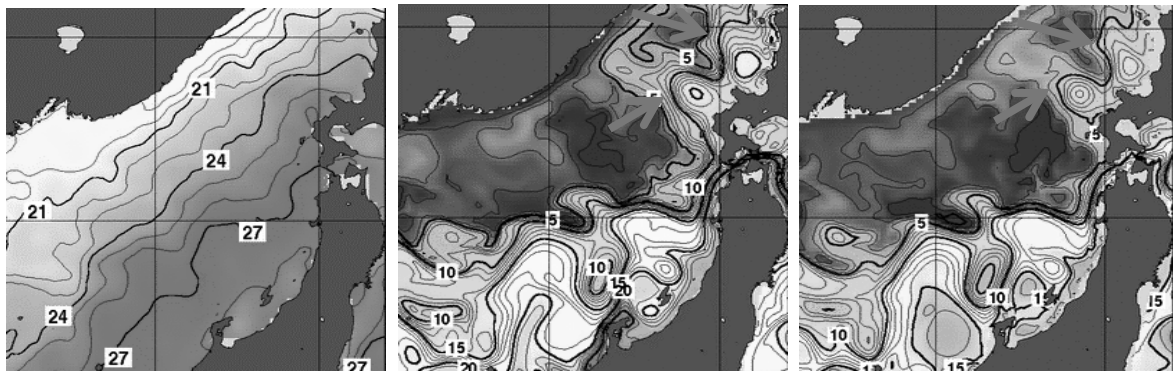


図3 気象庁による各層水温 (左から0m、50m、100m)

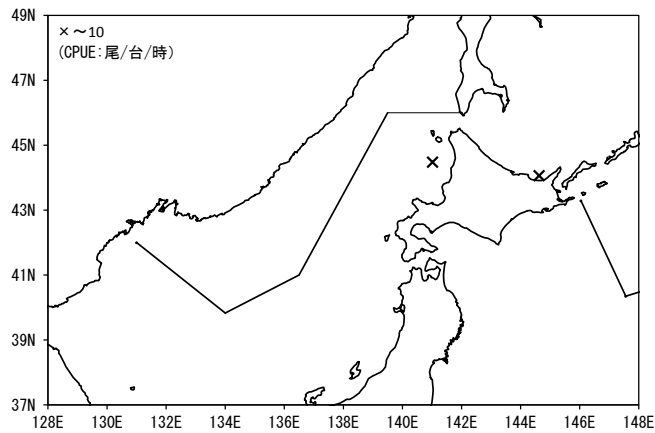


図4 9月調査結果 (スルメイカ)

考 察

第1次調査において、暖水が冷水に差し込む先端付近でCPUEが高くなる傾向があった。また、CPUEと各層水温と比較すると0mでは21°C、50mでは6°C、100mでは3°C付近で高いCPUEとなった。

大陸棚周辺に蟻集する傾向がある太平洋側漁場とは異なり、日本海側では、暖水と冷水の配置が重要となっているものと考えられた。